

はままつじょうはっくつつうしん 浜松城発掘通信

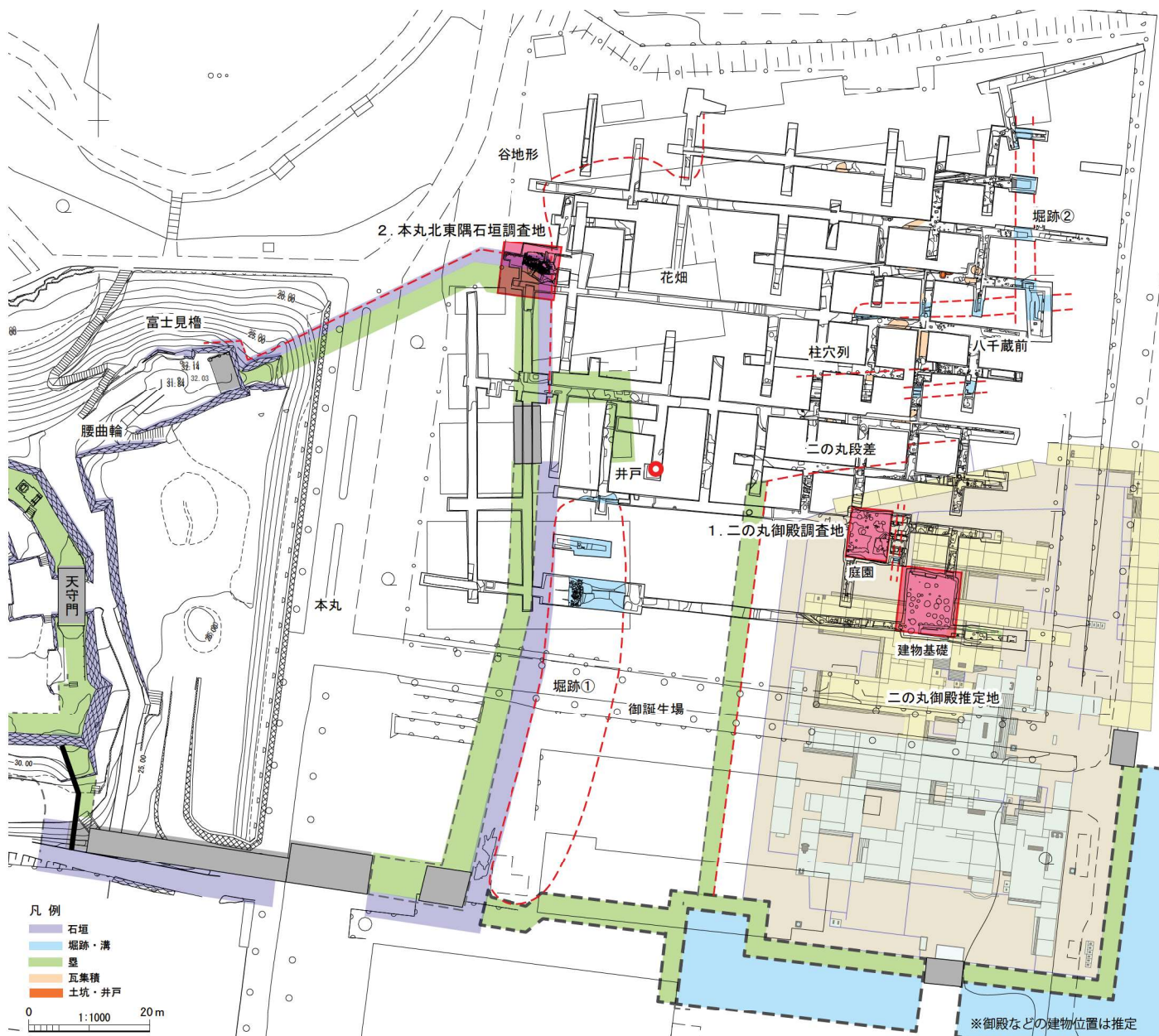
Nº17

浜松市文化財課 2022年 3月 18日

令和3年度の発掘調査成果を紹介します。

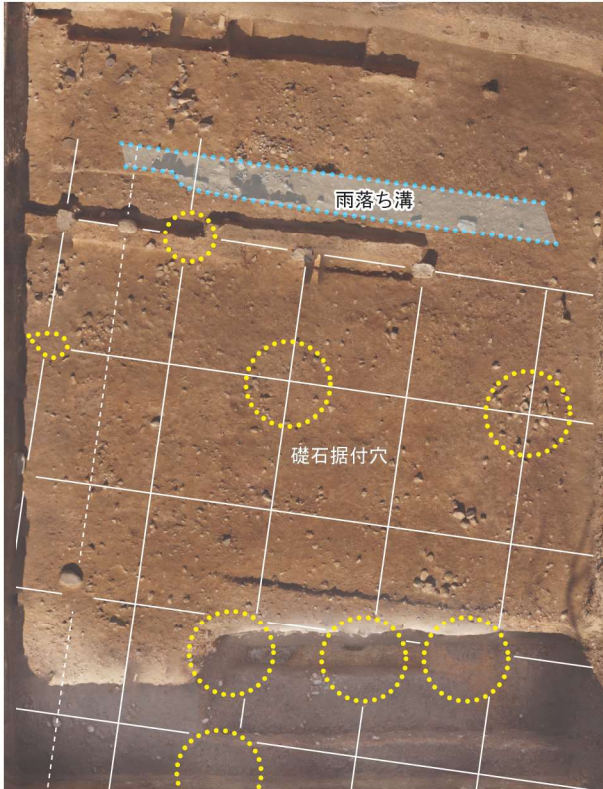
令和3年度調査では、調査対象地の南東部において、二の丸御殿のものとみられる建物基礎や雨落ち溝を確認しました。また、御殿建物跡の北西部では庭園跡を発見し、二の丸御殿に庭園があったことが明らかになりました。

このほか、令和2年度調査で発見した本丸北東隅石垣の詳細な調査を行い、特徴が明らかになりました。

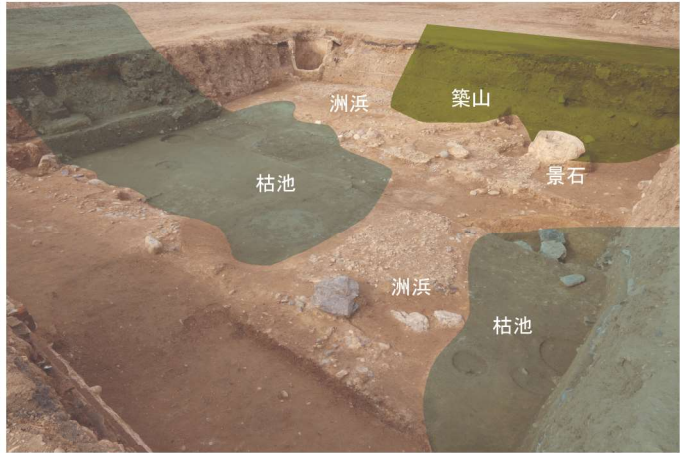


1. 二の丸御殿の調査

二の丸御殿は調査対象地の南東部にあたります。発掘調査によって二の丸御殿の基礎や雨落ち溝、庭園を検出しました。



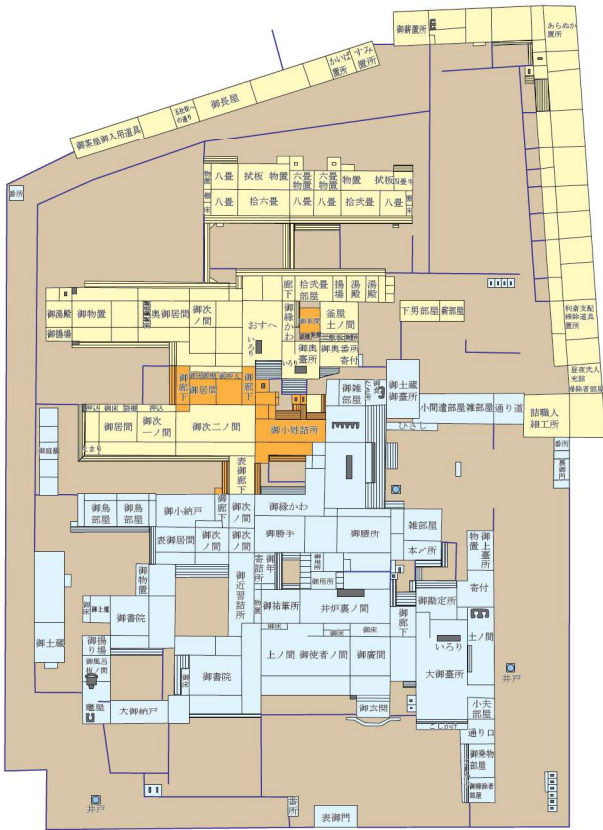
検出した二の丸御殿の基礎配置と雨落ち溝



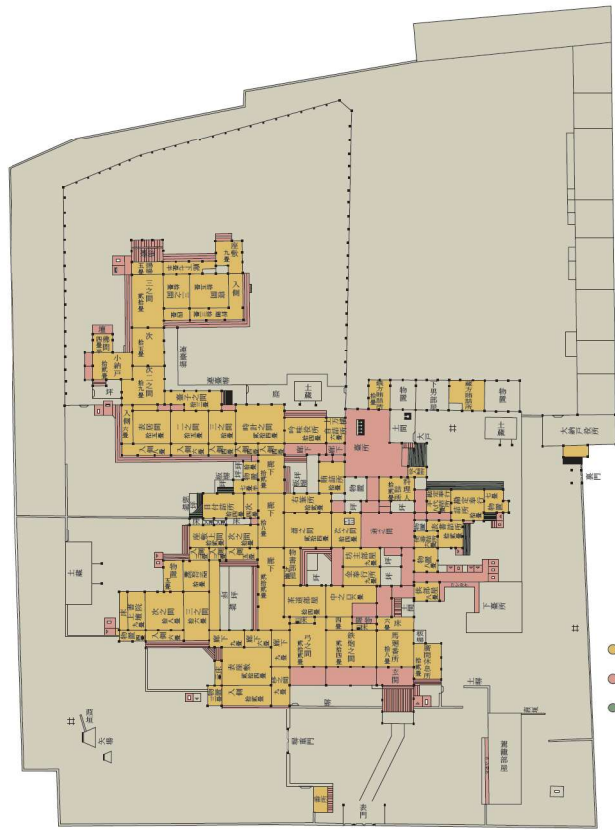
庭園遺構 (南東から)

二の丸御殿の建物基礎と庭園

御殿の柱を支える礎石を6石と、礎石を固定し安定させる穴(礎石据付穴)や礎石の痕跡を複数確認しました。礎石列の北側には軒先の雨水を受ける溝(雨落ち溝)が伴います。御殿建物跡の北西部では、庭園跡が見つかりました。二の丸御殿で確認された庭園は、円礫を敷き詰めた洲浜(すはま)、大型チャートを用いた景石(けいせき)、三和土(たたき)によってつくられた枯池(かれいけ)がみられ、枯山水庭園と捉えられます。

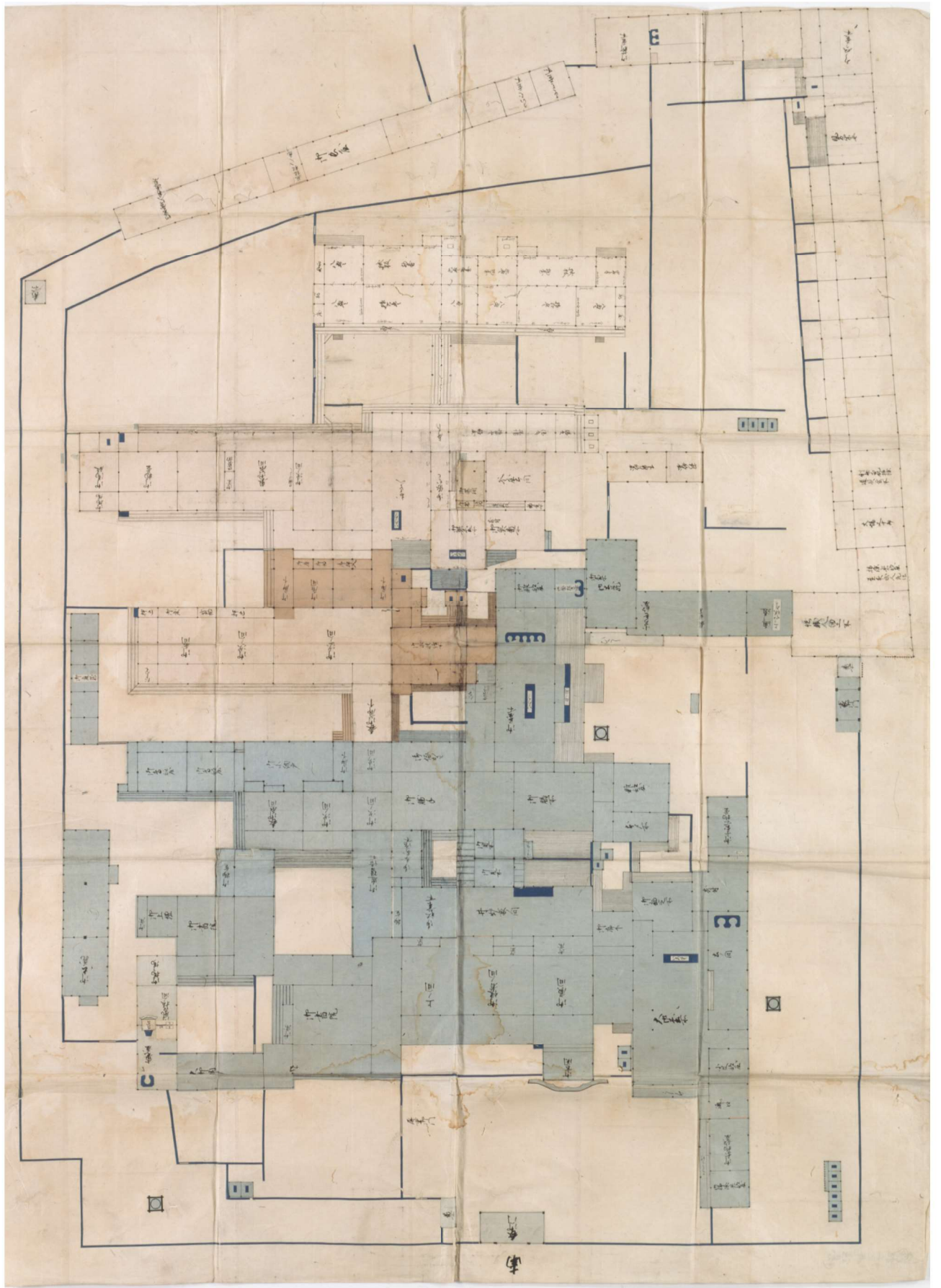


浜松城二の丸絵図(書き起こし図)



浜松二の丸図(模写)(書き起こし図)

浜松城の二の丸御殿を描いた絵図は2種類あります。浜松城二の丸絵図は17世紀後半を中心とした時期の御殿を表し、浜松二の丸図は、幕末のものを模写したものと捉えられています。2つの絵図から時期によって御殿の構造が変化していることがうかがえます。



浜松城二の丸絵図

2. 本丸北東隅石垣

本丸の北東隅石垣は、調査対象地から西側の富士見櫓へ続く部分も残存している可能性が高いことが明らかになりました。石垣の北側では、石材が集中して出土しました。地震等によって石垣が崩落した痕跡と想定できます。崩落した石垣の上からはかわらけが出土しました。かわらけの特徴から、石垣の崩落は、19世紀のことと捉えられます。



崩落した石垣と本丸北東隅石垣



本丸北東隅石垣

3. 出土遺物

出土遺物の多くは瓦で、二の丸の外周部を中心に出土しました。この中には家紋瓦が含まれ、18世紀に城主を務めた本庄（松平）氏の家紋「繫九目結紋」をあしらったものが多く見られます。本庄（松平）氏が城主を務めた時期に、瓦葺き建物の建築や修理が多く行われたことを示します。



崩落石垣上出土のかわらけ



鬼瓦